高知県立高知江の口特別支援学校高知大学医学部附属病院分校

令和4年度 学校経営計画・学校評価シート

	: (1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学 児童生徒の病状の程度、能力、適性、進路に応じた教育を行い、学校、医療・福祉、保護者、地域との連携のもとに、学ぶ楽しさや生きる像 事びを育て、自己肯定感をもって社会参加し、自立できる人間に育てる。	目 向指 けす	センター的機能の発揮及び、チーム学校として組織的・協働的に以下の項目に取り組む。 [1]専門性の向上 今病弱教育に対する教職員の知識とスキルの向上を図る。 ICTを効果的に活用した実践研究を行い、ICT活用指導力及び授業力の向上を図る。 [2]キャリア教育の充実 今児童生徒の自己肯定感や自尊感情を育む。
《取組の 方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進	・自分や周りの人たちを大切にできる児童生徒 ・目標をもち、自ら考え行動できる児童生徒 ・自分の将来に夢をもつことができる児童生徒 ・自分の将来に夢をもつことができる児童生徒 ・病気の回復や改善に必要な態度や習慣を身に付け、病気に負けず夢や希望に向かって進もうとする児童生徒	取組の概要に	◇

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分								
項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P·D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上病弱教育に対する知識とスキルの向上	た実践研究を行い、ICT 活用指導力及び授業力 の向上を図る。 ◆学習の空白や遅れを 作らないように、個々の 児童生徒の実態に合わ	◆児童生徒の病気は多岐にわたっており、研修により病気についての知識・理解を深めると共に、病院及びSCと連携する。	評価シートを作成する。 〈クロームブックを授業で活用する。授業内で授業評価シートを活用し、授業評価を行う。評価結果からその効果を検証する。 〈外部講師を活用し、ICT活用やプログラミング教育に関する研修会を年間3回以上実施でする。〈前籍校での学習の進捗状況を確認し、技事内容を精選して進める。学習進度は各教科担当と確実に共有し、進捗状況を担任が把握する。〈医師等の外部講師を招聘しての「病気」につい	・授業評価シートは小中学部ともに、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に対応したものに受習に取り組む態度」の3観点に対応したものに見直しをした。・ICT支援員の訪問が毎月あり、そこに合わせて活用に関する課題を集約し解決してきた。得た情報は研修会で共有した。その成果はクロームブックの活用にも生かされた。・ICT活用アンケートを全教員に実施したが、昨年度は毎授業が1名、週1回1名、2~3週間に1回が4名のたが、今年度は毎授業2名、週間に1回が4名名、週1回が1名と週の内1回以上活用されており、活用度は向上した。・7月と9月には特別な教育的ニーズのある子どもへの支援や「コグトレ」の研修会を行い支援方法を学んだ。・前籍校と情報共有して学習支援を行い、1学期の在籍児4名は復学後も支障なく過ごすことができている。・11月に精神科医師による摂食障害の児童生徒の支援についての研修会を計画した。	る機会をもち、実践的な研修を行う。 ・10月に実施したアンケートから出された課題を解決し、さらに活用指導力向上を目指す。ICT支援員を活用し、課題は確実に解決する。・前籍校と連携し学習計画を立てる。・・病気の子どものおかれた状況や復	・各学部とも、授業評価シートを活用し、実践をまとめることができた。 ・自主所修会5回、ICT支援員の訪問が年8回あり、その都度課題解決ができた。教員のクロームブック使用頻度が昨年度は「2~3週間に1回、1月に数回」が3名であったが、今年度は毎授業2名、週2~3回2名、週1程度2名と活用頻度が増えた。・前籍校とは、その都度連絡をとり、学習進度の確認ができた。また、高校受検を控えた生徒については、受検に必要な情報や支援をリモートで確認し、A 抜かりなく準備ができた。・・研修会は、「発達障害児の支援」、「限食障害」、「入院児の復学支援」、「ICTを効果的に活用した授業実践」をテーマとして年に5回行った。病気に関する知識と、患児、障害児に対する支援方法について具体的に学ぶことができた。	(病院)退院後の学校での様子を知ることはできるのか。 (学校)学校生活アンケートを前籍校に送り、記入してもらっている。学習進度も遅れることなくスムーズに復学できているとの回答をもらっている。通院の時に、分校に来て報告してくれる児童生徒もいる。	・授業や、日常での活用についての課題を
・ヤリア教育のの自己肯定感	・支援に困難性が高い 児童生徒への対応への 取組を進める。 ◆病気と向き合いなが ら、進路や職業につい	◆ストレス発散の場も必要であり、自立活動等の時間を有効活用し、入院生活のストレスの軽減を図り、学習意欲を高める。	児童生徒が在籍した場合は、医師・ 看護師・SCを含めた支援会議を実施し、支援方 法等を検討する。また前籍校や関係者とも情報 共有し移行支援も行う。 ◇自立活動の時間に、本人の興味関心を考慮し ながら、体を使ったゲームやボードゲーム、ド ローン等を取り入れながらストレス軽減を図る。 また、状況によってはSCと連携して支援する。	・生徒が復学する際に、主治医、看護師、前籍校、本分校が参加し支援会を実施した。不安解消につながリスムーズに復学できた。 ・自立活動の時間には、児童生徒が好むものづくりやゲームを教員やSCと行い、ストレス軽減につながった。 ・課外活動でSDGsの取組を行った児童は保護者、病院関係者、教員の前で発表も行い、学びながら自信をつけていた。 ・理学療法士による授業を11月に計画した。		・コロナウイルスの感染がおさまらず、支援会はできないことが多かったが、医療関係者、前籍校とは常に連絡をとりスムーズな復学につなげた。・不登校児の支援について、SCも交え分校としての取組を検討した。児との関係を切らさず、登下校時には全教員が実顔で明るく対応することなど改めて確認できた。・理学療法士、薬剤師の仕事について講師を迎え授業を実施できた。専門の方の話を聞く機会が珍しく、児童生徒は熱心に話を聞いていた。	(病院) Bとした理由は何であるか。 (学校) 不登校児の支援については研修をしたり、支援 制や、支援方法についてはまだ検討の余地があると考 えている。そのためBとした。 (病院) 不登校児は、確かに増えている。前籍校の様子 など、担任から情報が入ることで病院も支援ができる。 大事な情報源となっており、連携させていただき病院も対応したい。 ゲストティーチャーの取組はよい。病院関係者だけなく、他の業種もおもしろいのではないか、例えばうなぎの 稚魚を育てる人とか、ぜひ続けてほしい。	前籍校、病院、その他関係機関と連携し情報共有しながら計画的に支援を実施する。 支援の効果を検討する。 ・ゲストティーチャーによるキャリア育成につながる授業を実施する。講師については、児童生徒の興味関心や将来の希望を聞きながら選定する。
学校設定項目様な教育的ニーズに対する	校との連携し、学習の 保障と充実を図り、円滑 な前籍校への復学につ なげる。 ◆環境教育に取り組 み、持続可能な社会づ くりの担い手として知識	◆病院と連携し、病状の確認・治療の見通し等を確認しながら学習内容の充実を図る必要がある。 ◆スムーズな復学に向けて、児童生徒の状況に応じて居住地校交流を実施する必要がある。 ◆学習の中で環境教育を取り入れ実施していく。 〈評価指標〉 ○必要に応じて支援会を実施する。 ○医教連絡会を5回以上、医教連絡協議会を2回実施する。 ○参観週間を年間3回実施する。 ○環境教育について研修をする(年2回)。 ○環境教育の授業をする(年1回以上)。	◇医教連絡協議会及び医教連絡会を実施する。 ◇必要に応じて支援会議を実施する。 (前籍校、病棟、分校等) ◇参観週間を各学期に1回実施する。 (保護者・病院関係者に案内) ◇テレビ会議システム等を活用し、居住地校交流を実施する。 〈環境教育についての研修会を行い、授業を行い、検討する。 〈環境教育について授業をした教員は職員会で報告する。	徒や保護者に速やかに対応できた。 ・居住地校交流を、小学生は2回、中学生は5回実施した。 ・環境教育については、全教員での検討はまだでき	・医教連絡会・医教連絡協議会の実施、毎日の病棟間き取り、希望者への速やかな教育対応を行う。・引き続き居住地校交流を行う。・参観週間を実施し、参観者から意見をもらう。・・引き続き授業の中で環境教育に取り組む。	・医教連絡会を4回、医教連絡協議会2回実施できた。学校評価アンケートでは、医療関係者から学校のことを何でも知らせてほしいというご意見もあり、学校での様子を伝えるようにした。 ・居住地校交流は、年間(1月末)で計59回実施することができた。リモートでの交流が日常的にできるようになり、不安軽減につながった。・児童生徒の実態に合わせて環境教育を行った。入院期間内での学習となるため計画がしづらく、一部の児童生徒のみの実施となった。次年度は計画段階から、分校でできるやり方を検討する必要がある。	(病院)SDGsの学習などは地域性もあり前籍校の学習 進度に合わせるのは難しいのではないか。 (学校)入院期間により、在籍期間も決まるため確かに 計画はしにくい。次年度は、前籍校の学習進度に合わ せるのではなく、分校で計画、準備し、どの児童生徒に もSDGsについて触れる機会は作るようにしたい。 (病院)今年度も調査や、発表などの取組もしている。B +(プラス)でいいのではないか。	に合わせて学習を行う。児童生徒の興味 関心のあることから、地球に暮らす一員と して何ができるかを考え、一つでも実行す
働き方改革	ントと業務の効率化を 図る。 ・グリーン社会実現の視	◆令和3年度には、「業務引継ぎシート」により、学部、分掌で業務内容が整理され可視化できた。また、教員が担当する役割についても明確になった。業務遂行上、不具合がないか確認が必要である。また、今年度はグリーン化社会実現のための視点からも業務を見直す。〈評価指標〉 〇年休:10日以上取得 〇学期末の職員会や反省職員会等の意見集約 〇面接による教員からの聞き取り ○業務改善・引継ぎシートの運用と改善(学部・分掌、担当、教頭) 〇資源の有効活用(ミスプリ紙の裏面再利用、印刷ミス減、電気関係の使用についての見直し等)	◇教員同士、管理職も含め話しやすく、協力を求めやすい環境づくりのため、相手を思いやる言	・管理職も含め、全教員で学校全体に関わるような業務は協力し合って行うことができた。小中学部問わず、児童生徒の状況については全員で把握し意見を出し合って取り組むことができた。・常に情報共有できており、職員会も短縮化できた。・ごみの分別は、ごみ籍を分けたことにより徹底できるようになった。必要でない電気を消したり、ペーパーレス化には引き続き取り組みたい。	・引き続き全員体制で、気持ちよく仕事のできる環境づくりに取り組む。 ・環境に配慮した行動について考える機会をもち、学校としてできることを再確認し、一人一人の意識を高める。確認したことに取り組む。	・各教員が、業務引継ぎシートを見直し、業務内容を精選、整理をした。引継ぎ文書がいくつかあったものもあるが、一つにまとめたり、引継ぎシートにある業務と業務に必要な文書がリンクするようにしたりとさらに業務の効率化を進めることができた。・会議を見直し、時間短縮、回数を少なくした(年間で2回滅)。・各教員が、タイムマネジメントできるようになり就業時間内に業務を終えることができた。・使用してない教室の電気を消したり、こみを分別したりと各自自覚をもって取り組んだ。なお一層声を掛け合い、積極的に取り組んでいきたい。	(病院)ごみの分別はこれまでしていなかったのか。 (学校)していません。今年度ごみ箱を購入し、また清掃業者に分別方法を聞いて分別するようにした。 (病院)教員の年休は10日以上取得したのか。 (学校)全員が取得できています。 (病院)業務改善、また節電、ごみの分別等改善しているのでAとする。	・分掌等の担当者が代わっても、支障なく 業務が遂行されるよう業務引継ぎシートを 整理する。整理するときには、効率化の視 点も入れ、すぐに業務に取り掛かれるよう 工夫する。 ・節電、節水等エネルギーの節約に努め る。 ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)に 取り組む。